

特定非営利活動法人日本オリンピック協会

# OAJ NEWS

Olympians Association of Japan

vol. 2019 **36**



スポーツくじ



スポーツ振興くじ助成事業

●OAJインタビュー／ダイジェストコラム

## オリンピックは たくさんの気づきを 得られる場所

松岡修造 (テニス／ソウル、バルセロナ、アトランタ)






# オリンピックの人間力<sup>ちから</sup>

「オリンピックの人間力」では、まなざしの奥に潜在するオリンピックの人間力に迫ります。  
このインタビューは、OAJウェブサイト(<http://www.oaj.jp>)でご覧いただけます。  
(文：田坂友暁、写真：フォート・キシモト)





# Shuzo Matsuoka



錦織圭選手がリオデジャネイロ大会で銅メダルを獲得して、オリンピックにおけるテニス競技は、大きな盛り上がりを見せています。実は、日本がオリンピックで初めてメダルを獲得した競技がテニスです。1920年アントワープオリンピックで熊谷一彌さん（シングルスとダブルス）と柏尾 誠一郎さん（ダブルス）がそれぞれ銀メダルを獲得しました。その後、テニスは一度オリンピック競技から外れますが、1988年のソウル大会で復活。松岡修造さんは、テニスがオリンピック競技に復活してから3大会連続で出場。そこで得た経験こそが、今につながっていると言います。

東京2020大会オリンピック日本代表選手団公式応援団長でもある松岡さんに、オリンピックがなぜ人を惹きつけるのか。その魅力について、じっくりお話を伺いました。





テニスというスポーツは、オリンピックに対して少し特別なところがあったと思います。

熊谷一彌さんがアントワープ大会で日本初となるメダルを獲得した競技ですが、その後一度オリンピックから離れています。どうしてもグランドスラムという、世界的に大きな大会が年に4回もありましたから。僕が小さいころからテニスをやっているなかで、テニスでオリンピックに出場するというイメージはありませんでした。

そのテニスが、オリンピック競技に復帰したのが、1988年のソウル大会でした。これは僕にとって、とてもラッキーなことだったと思います。このソウル大会から、バルセロナ大会、アトランタ大会と3回出場させてもらいましたが、この頃から日本はもちろん、海外のテニス選手たちのオリンピックに対する考え方に大きな変化が出てきました。

今までは“グランドスラムのほうが大事”と言っていた選手たちが、オリンピックに出場することで、グランドスラムだけではなく、オリンピックでも勝ちたいという考え方に変わってきたのです。

なぜそんな変化が起こったのか。いちばんの要因は、オリンピック期間中に、いろいろな競技を直接観て、他競技の選手たちと触れ合うことができたからだだと思います。選手村にいる

様々な競技の選手たちとたくさん話をする中で、その選手たちのオリンピックに懸ける思いが、僕たちとはあまりにも違いすぎていることに気づくのです。失礼な言い方かもしれませんが、僕たちテニス選手は、たとえオリンピックで負けたとしても、それに匹敵するような大きな大会が年に4回もあります。ですが、多くの選手たちはそうじゃない。4年に一回訪れる、オリンピックこそが最大の大会なんです。そのプレッシャーと戦ったり、人生を懸けて試合に臨んだりする姿を目の当たりにしたとき、このオリンピックというものはとんでもない大会だと実感したんです。

オリンピックは、これ以上ない世界最大のスポーツの祭典という考え方に変わっていったからこそ、ロジャー・フェデラー選手をはじめ、多くのテニス選手たちも、どうしてもオリンピックで勝ちたい、という考え方に変わっていったと思います。

### オリンピックは今の松岡修造につながる何かを“気づかせて”くれた場所

僕自身のオリンピックを振り返ると、僕の実力を客観的に考えても、メダルからは相当かけ離れていたと思います。実際、オリンピックでは一度も勝っていません。だからこそ僕は、オリンピックという舞台で活躍したい、という思いが誰よりも強かったと思います。

そして、今の松岡修造にいちばん力をくれた、そして何かを気づかせてくれたのも、まさにオリンピックでした。僕が負けて選手村にいと、ほかの競技の選手たちが僕に「応援しに来てほしい」と言ってくれました。僕も、「じゃあ応援に行くよ！」と言って、その競技の選手たちといろいろ話をするわけです。この試合で自分が何を目指しているのかとか、自分が弱くなったときにどんな感じになるのかとか、それぞれ選手が抱えている悩みや不安についても話したりしました。

このときの経験があったからこそ、僕は応援のときに『ここで自分から逃げるな！ 攻めていけ！』とか、選手が今いちばんかけてもらいたいと思う言葉を伝えられているんだと思います。

その時はじめて、僕はテニスをする才能より、選手たちを応援する才能のほうがあるということに気づかせてくれたんです。会場全体を巻き込みながら、全員で心をひとつにしていく。そういう応援を、オリンピックという舞台で体験できたことが、今の僕につながっているのだと思います。

だから、本当にたくさん応援に行きましたし、選手時代からすでに応援に生き甲斐を感じながらやっていたね。

## プラスの要素としてオリンピックをとらえれば 日本の素晴らしさは必ず伝わる

僕がオリンピックを経験して感じてきたのは、開催国、開催都市の人たちが、自分たちの文化や考え方というものを、海外の人たちに対して、メディアに対して伝えたい、という気持ちがとても強いということです。なぜなら、オリンピックという大会は、競技だけを観に来ているわけではなく、その国、その都市、そしてそこに住む人たちも観に来ているからです。それがオリンピックだと僕は思っています。特に応援する立場から観たロンドン大会や北京大会でも、その都市の人たちの自信を持った、生き生きとした姿が、いちばん僕の記憶に残っているんです。

だからこそ、東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まってから6年間、僕がずっと言い続けてきたのは、自分にとってのオリンピック・パラリンピック、『自分ピック』にしようということです。

2020年まで、自分自身の目標を持ち、その目標に向かって一所懸命生きている。そういう生き生きとした人の姿は、人の心に焼き付くものだと思います。そうすると、日本は子どもたちも含めて、住んでいる人たちが輝いている良い国だということが伝わると思うんです。

もちろん、オリンピックに対していろんな意見があることも理解していますが、オリンピックが開催されることは決まっていますし、どうせ開催されるのであれば、オリンピックを自分にとってプラスの要素としてとらえたほうが絶対に良いと思うんです。オリンピックを前向きにとらえる人がいればいるほど、日本の素晴らしさはもちろん、日本の力を世界中に伝えることができる。オリンピックというスポーツの祭典を通して、日本の文化を伝えていける。これほど伝わりやすいものはないと思います。

## 心をひとつにして、そのパワーを選手たちに届けたい

今回、東京2020オリンピック日本代表選手団公式応援団長という大役を担うことになりました。でも僕は、日本代表選手に対して、ただ「メダルをとってくれ」とか「勝ってもらわないと困る!」という思いで応援したことはありません。もちろん勝ってくれたらうれしいですが、それは、勝負事のひとつの結果に過ぎません。僕が選手に伝えられることは「オリンピックの雰囲気にもまれて自分の力が出せませんでした」というのが



いちばん残念だということ。結果も大事ですが、みんな東京2020大会を目指して頑張ってきたわけですから、今まで一所懸命頑張ってきてよかった、自分たちのベストパフォーマンスが出し切れたと、試合が終わったあとに選手が言えることがいちばん大事だと思っています。

応援団長という響きにすごく気が引き締まる思いですが、団長は偉いわけでも何でもありません。団長としていちばん大切な役割は、人と人、選手と観客、日本と海外をつなげていくこと、そして応援する人たちの心を一つにしていくことだと思っています。心と心がひとつに合わさっていくと、人間は大きなパワーを発揮できますし、それが前向きな心であればあるほど、そのパワーはより大きくなっていくと思います。そういう力を生み出す役割を担えたらうれしいですね。そして、オリンピックというスポーツの祭典を通して、その後の人生のヒントになるような何か“気づき”を得てもらえれば最高です。

オリンピックには、人間らしさそのものが凝縮されていると思います。勝ち負けがあり、喜び、挫折、そうした喜怒哀楽を



日々感じられる。たった2週間のうちに、選手たちが自分の人生をかけた筋書きのないドラマが、日本の至るところで繰り広げられているんです。そこで僕ができることは、オリンピックという舞台に立つ日本の選手、海外の選手もみんなが全力を尽くせるように、僕たち応援する人たちの心をひとつにして、パワーを送ることだと思っています。

### 勝つ姿だけではなく、負ける姿からも “気づき”を得られるのがオリンピック

僕はオリンピックには一体何があるんだろう、と考えることがあります。オリンピックを観に行く人たちは、もちろん自国



の選手が一所懸命頑張る姿を応援しに行くというのもあると思いますが、それだけではありません。オリンピック期間中は戦争がなくなる貴重な時間でもあるし、それは間違いなく平和につながっています。国も言葉も関係なく、みんながひとつのオリンピックという舞台を目指して努力を積み重ねる。その勝負に勝ったり負けたり、選手たちの人間ドラマ

も選手の数だけあります。オリンピックだからこそその出来事を目の当たりにした人たちが、それぞれ多くの新しい“気づき”を得られる、オリンピックはそういう場所ではないかと思うんです。僕がオリンピックで記憶に残っているシーンはいっぱいありますが、それは、試合で負けた選手や思うような結果を出せなかった選手の姿のほうが、人間味という部分でとても印象に残っています。そういう選手たちは、その挫折を乗り越えてまたさらに成長して活躍し、その挫折の経験を糧にして競技を引退したあとの人生を力強く生きていく。そんな姿を見ていると、自分も頑張っていこう。こんな挫折に負けていられない、って力をもらえるんですよ。勝つ姿だけではなくて、負ける姿からも、もっと言えば、選手が人生をかけて挑むあらゆる姿から力もらえる。それもオリンピックの魅力のひとつだと思います。

### オリンピックの力で大きなパワーを生み出し それがオリンピックをさらに盛り上げる

オリンピックとして、オリンピック精神は何かと考えたら、先ほども言いましたが、僕は「心をひとつにする、ひとつになる」ということではないかと思います。人はどうやってつながっていくんだろう。人はどうすれば心がひとつになっていけるのか。オリンピックやスポーツを通して考えることで、心をひとつにする大切さに改めて気づけるのではないかと思います。

それともうひとつ、東京2020をきっかけとして、自分がオリンピックであるという誇りをもう一度思い出すと同時に、そこから新しい目標や夢が生まれるのではないのでしょうか。オリンピックは、参加することに意義がありますが、オリンピックは、必ずオリンピックスピリットを持っていると思います。周りの評価とか関係なく、自分のやりたいことは何なのかを追求していくスピリットですよ。

元々、自分のやりたいスポーツがあって、それでオリンピックに出場するために一所懸命努力して、その夢を勝ち取ったわけです。であれば、第二の人生に向けて、東京オリンピックが来ることによって改めて気づかせてくれた誇りを持って、再び自分が人生のチャンピオンになるために、新しく挑戦したいことを見つけるチャンスなのかもしれません。

だからこそ、オリンピックのみなさんには、ぜひとも東京オリンピック・パラリンピックに参加してもらいたいと思います。その参加というのは、応援だったり、オリンピックの素晴らしさや楽しさを多くの人たちに伝えたり、どのような形でも良いと思います。オリンピックみんなが、東京2020に向けて、みんな参加しようと呼びかけたら、とてつもないパワー、原動力になると思いますよ。

僕が日頃感じているのは、1964年の東京オリンピックに出場した選手の声はもちろんですが、出ていない人の声すごいということ。64年の自分はこうだったとか、テレビを見ていてこういう気持ちになったからこれを始めたとか。言ってみれば、それはもうオリンピックに参加していると思うんです。選手としてではありませんが、オリンピックを見て何かを感じ一歩を踏み出したら、それはもう参加しているんです。間違いなく、2020年にも同じ事が起きます。だからこそ、僕は全員が自分から何かを感じることで、新しい“気づき”を求めるようなオリンピックであってほしい。そういうオリンピックになれば、必ず盛り上がっていくと思います。

オリンピック：松岡修造(まつおか・しゅうぞう)

1967年東京都生まれ。10歳の時に本格的にテニスをはじめ、高校2年でテニスの名門福岡県/柳川高校へ編入する。同年高校総体で、シングルス、ダブルス、団体の3冠達成。その後、単身アメリカへ渡り、86年プロに転向。1995年には、ウィンブルドンで日本人男子として62年ぶりとなるベスト8進出を果たすなど、日本を代表するプロテニスプレーヤーとして活躍。自身のオリンピック出場は、1988年ソウル、1992バルセロナ、1996アトランタの3大会。現在は、世界を目指すトップジュニアの指導など、後進の育成に尽力する一方、メディアでも活躍中。1998年長野冬季大会以降のオリンピックでメインキャスターを務めたほか、2008年北京、2012ロンドン、2016年リオデジャネイロ、2018年平昌に続き、2020年東京でも「日本代表選手団公式応援団長」に就任。





平成  
30年度

# 総会・懇親会

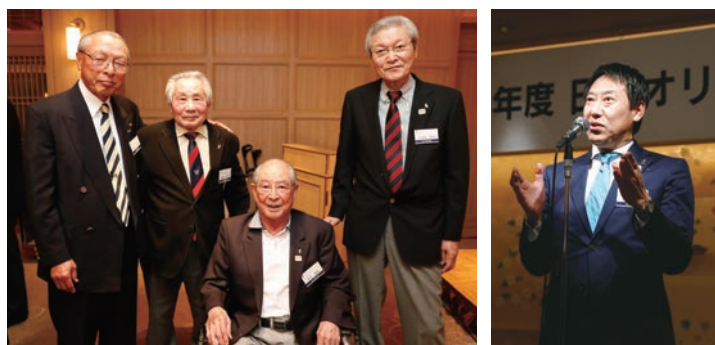


平成31年3月26日(火)、「平成30年度OAJ総会・懇親会」を東京都の明治記念館にて開催し、100名を超えるオリンピックを含む130名の会員の皆さまにご参加いただきました。本年度の総会では2019年5月16日に完成しました「Japan Sport Olympic Square」内にオープンする日本オリンピックミュージアムや、WOA(世界オリンピックズ協会)の近況等について説明、報告がありました。

懇親会では、水泳(競泳)で北京大会に出場した伊藤華英さんに司会を務めていただき、鈴木大地会長からの挨拶、瀬古利彦理事による乾杯ののち歓談になりました。

また、会では出場大会ごと、参加オリンピック全員の記念撮影を行った後、早田卓次理事長の中締めの挨拶で盛会に終了いたしました。

令和元年度総会・懇親会は令和2年3月24日(火)に開催を予定しております。より多くの方々と世代や競技の枠を超え、同じオリンピックズとしての交流会となるよう楽しみにしております。





# オリンピックの集い

## 平成30年度 オリンピアン集い(長野県)

1998年長野オリンピックから20周年を迎えた長野県のホテルメトロポリタン長野にて、「平成30年度オリンピックの集い」を平成30年9月8日(土)に開催しました。

毎年3月に東京で開催する総会懇親会に参加できない地方在住のオリンピックの皆様との交流の場として、全国各地で開催してまいりました地方開催のオリンピックの集いも8会場目となり、長野県在住やゆかりのあるオリンピックを中心に16名の方にご参加いただきました。

会は鈴木会長の開会の挨拶に始まり、集いに初参加の方から自己紹介や近況報告など、貴重なお話を伺うことができました。令和元年度は大阪での開催を予定しております。引き続き多くの皆様のご参加をお待ちしております。



## 平成30年度 オリンピアン集い(ゴルフ大会)

スポーツでのオリンピック相互の交流を主眼とし、「平成30年度オリンピックの集い(ゴルフ大会)」を平成30年9月27日(木)に埼玉県森林公園ゴルフ倶楽部にて開催。

14名の皆様にご参加いただきゴルフコンペと懇親会を実施しました。



### お知らせ

#### ●事務局からのお知らせ

OAJ公式のFacebookページとInstagramを開設しました

Facebook ページ

アカウント名 @oaj.jp

▶ <https://www.facebook.com/oaj.jp/>



Instagram ページ

アカウント名 olympians\_japan



#### ●令和元年度日本オリンピック協会 総会・懇親会 開催のお知らせ

年に一度開催しております、日本オリンピック協会 総会・懇親会につきまして、本年度は下記のとおり開催する予定です。  
日時:令和2年3月24日(火) 会場:日本青年館

#### ●移転のお知らせ

公益財団法人日本オリンピック委員会の新会館「Japan Sport Olympic Square」完成に伴い、本会事務局を下記のとおり移転しました。

移転先

〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号 Japan Sport Olympic Square 4階  
TEL:03-6447-5070 FAX:03-6447-5601



**10/20** 愛知県名古屋  
●邦和スポーツランドアイスリンク

**アイスホッケー** 講師 久保英恵  
中村亜実  
平野由佳

参加人数 48名




**3/21** 青森県青森市  
●新青森県総合運動公園

**新体操** 講師 サイド横田仁奈

参加人数 36名




**12/2** 大阪府茨木市  
●茨木市立東市民体育館

**バドミントン** 講師 水井妃佐子  
須賀泰子

参加人数 47名




**10/8** 香川県高松市  
●香川県立総合水泳プール

**競泳** 講師 中村真衣  
種田恵

参加人数 60名




**11/17** 高知県高知市  
●高知県立県民体育館

**卓球** 講師 小西杏

参加人数 49名




**11/23** 和歌山県和歌山市  
●県立和歌山北高等学校西校舎

**レスリング** 講師 湯元進一  
湯元健一

参加人数 72名







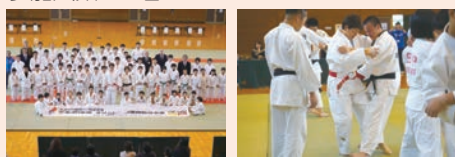
# 開催会場一覧

主催／特定非営利活動法人日本オリンピックズ協会  
協力／公益財団法人日本オリンピック協会

10/28 北海道岩見沢市  
●岩見沢市総合体育館

柔道 講師 田辺陽子  
榑崎教子

参加人数 59名



12/9 埼玉県深谷市  
●深谷市総合体育館

バスケットボール 講師 小磯典子  
立川真紗美

参加人数 90名



11/25 東京都中野区  
●哲学堂運動施設 庭球場

ソフトボール 講師 高山樹里  
山田美葉

参加人数 35名



12/15 長野県松本市  
●松本平広域公園陸上競技場

陸上競技 短距離 講師 塚原直貴

参加人数 60名



## 令和元年度 オリンピック巡回指導事業

# 開催一覧

●オリンピック巡回指導事業  
【スポーツ振興くじ(toto)助成事業】

9/1 山形県山形市  
●山形市総合スポーツセンター  
アーティスティックスイミング

9/21 北海道札幌市  
●屯田西公園  
サッカー

9/29 宮城県仙台市  
●七北田公園体育館  
バドミントン

9/29 石川県金沢市  
●金沢プール  
アーティスティックスイミング

10/22 青森県青森市  
●新青森県総合運動公園  
新陸上競技場  
陸上競技

11/3 鳥取県米子市  
●皆生プレイパーク \*雨天時  
米子市皆生市民プール内体育館  
トライアスロン

11/23 青森県青森市  
●青森県営スケート場  
フィギュアスケート

11/23 和歌山県和歌山市  
●県立和歌山北高等学校西校舎  
体操競技

1/26 和歌山県橋本市  
●和歌山県立橋本体育館  
卓球

2/15 愛知県名古屋  
●邦和スポーツランドアイスリンク  
アイスホッケー



# ROAD to Tokyo 2020



世界オリンピックズ協会(WOA)からのお知らせ

2020東京オリンピック競技大会までのカウントダウンが始まりました。世界オリンピックズ協会では、オリンピックの皆様にご提供する様々なサービス及び機会への事前登録を開始しました。

登録方法:<https://olympians.org/tokyo-2020/> (日本語有) に必要事項をご入力ください。ご登録いただいたオリンピックは、下記のようなオリンピックの方々のためのプログラム及びイベントの情報をメールで受け取ることが出来ます。



- **OLYハウス:** オリンピック期間中のオリンピックのためのホスピタリティスペース。世界中のオリンピックが集まり、試合を観戦したり、交流したり、リラックス出来る場の提供を予定しています。
- **チケットプログラム:** オリンピックのチケット2枚 (オリンピックご本人及びゲスト1名) を提供するプログラム。数に限りがあり先着順です。
- **シャペロンプログラム:** オリンピックパートナーと一緒に試合を観戦しながら、オリンピックの方々との貴重な経験や知識を共有します。オリンピックとオリンピックパートナーのネットワークの構築にも繋がっています。
- **イベント:** 各種パーティやイベントへのご招待。
- **日本在住オリンピック向けのプログラム:** OLYハウスの運営など、世界中からやってくるオリンピックをおもてなしするお手伝いをしていただけるオリンピックのボランティアを募集予定です。

WOA is looking forward to seeing you all in TOKYO!!



## OLYをお持ちですか？

OLYはオリンピックに出場したオリンピックのみが使用できる称号です。Ph. D (博士号) やMD (医学博士) のように名前に付けることで、オリンピックであることを伝えることが出来ます。現在、世界中にいる10万人のオリンピックのうち1万4千人以上が使用しています。まだお持ちでないオリンピックは、<https://olympians.org/olympians/oly/> (日本語有) から登録してください。WOAでの確認後、メールでOLY証明書が届きます。

OAJの正会員でOLYの認証を受けた方に限定のOLYピンバッジをお送りいたします。発行には申請が必要になりますのでOAJホームページにある「OLYピン申請」のリンクバナーからご確認ください。

